

み
か
い

か

い

安住院便り (第44号)

令和2年1月1日発行

〒703-8236
岡山市中区国富3丁目1-29
住職 生駒琢一
TEL(086)272-2320 FAX(086)273-9327

門（もん）

新しい元号「令和」の最初のお正月ということで、特別な気持ちで迎えることになります。

新しい出発を門出（かどで）と言います。が、門という字は、柱と扉の形で表され、敷地内と外界を分ける境界の入口です。

玄関は、元々禅宗寺院の仏教語で、（玄妙なる閑門）という意味で、悟りを開くために通る場所を示します。どちらも、現在の家の中では、戸締まりも重要です。

一般的な寺院では、この門にも種類があり、当院でも、山門（赤門・仁王門）と鐘楼門（白山門）と中門の三つがあります。山門は、瓶井山禅光寺という大きな寺院群の境内に入るも



山門には、扉は有りませんが、その門を通過する時には、仏様の世界に踏み入れるという気持ちを持つて頂く必要があります。山門内の両脇におられる仁王様は怖い顔ですが、仏教に帰依する皆様を優しく見守つてくださいます。

鐘楼門は、現在は除夜の鐘をつく時だけですが、梵鐘が吊されていて、仏様の説法の声を届けるために、本堂の入り口にあるのです。やはり、神聖な領域に足を踏み入る気持ちを忘れないで欲しいものです。自動車社会の現代では、なるべく目的の地点まで近づきたいとの思いがあり、山門などは通り過ぎてしまう方も多くあります。今の忙しい社会の中でも、寺院の境内は宗教的に特別な雰囲気を保つ場所として、是非心に止めて頂きたいものです。そして、山門より少し歩いてみると、また素晴らしい感覚になると信じています。

合掌

安住院ホームページ <http://www.anjuin.com/>

初観音法会のご案内

(兄弟仲良く、元気です)

出雲大社参拝

来る一月十七日（金曜）

午後一時より

本尊千手観音御宝前に於いて、大般若祈祷並びに護摩供を厳修致します。

年頭にお配りする「とし書き」にご記入の上、ご参詣下さい。また、特別祈祷も申受けますので、三日前までにご連絡下さい。



両界曼荼羅修復



真言宗寺院では、御本尊と同様に、両界曼荼羅といつて、仏様が整然と配置された仏画が祀られます。当院にも室町時代の制作と推測される両界大曼荼羅が所蔵されていて、法会などに使用されています。しかし、破損がひどく昨年より名古屋の仏師のもとに、修復を依頼していました。その一对の曼荼羅の修理が終わり、無事当院に戻つてまいりました。法会等に利用して、是非拝んで頂きたいと考えております。

足立美術館では、有名な庭園鑑賞と著名日本画家の作品

昨日秋、十月二十二日に島根県の出雲大社と松江・月照寺の参拝と足立美術館鑑賞の団参に行きました。当日は、新天皇陛下の即位礼正殿の儀で休日になり、皇居では厳かな儀礼が執り行われ、出雲大社でも特別な雰囲気で、多くの方が足を運んでいました。

元々、旧暦の十月は神無月

ですが、出雲は全ての神様が集まる神有月として、様々な行事が行われます。その中で、現地ガイドさんの詳しい案内で、大社の認識も新たなものになりました。



をゆっくり見学し、時間が経つのを忘れるくらいでした。高速道が整備されたとはいえ、少し長い移動でしたが、綺麗な雲海も眺められ、充実の一日でした。次回の団参も宜しくお願ひ致します。